

千年の森便り No.150

2016.01.21

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

事務局長 伊藤道男

sennennomori@hotmail.co.jp

年頭のご挨拶

代表 久我哲也

新年おめでとうございます。今年もよろしくお願ひします。この所、暖冬続きで今日も曇っていますが、多くの会員の方々にご参加して頂き有難うございます。冬の豊英島は、多くの木々が落葉して、夏の景色とは一変して、四季それぞれの美しい景色が見られます。

今年も、植物調査、野鳥や昆虫の観察、森林整備等もあり、野生のキノコ観察会は一般参加者も含め、7月と10月、2回計画されています。千年の森活動で、会員の方、一般でご参加される方々との楽しい出会いの場になることを期待しています。

活動の記録

1月17日(日)曇

参加会員は伊藤、岩崎寿一、鶴沢、及川、久我夫妻、坂本、高橋洋子、根本、成沢、福島、真鍋、村野、山口、新入会の秋元さん、ちば里山カレッジのインターンシップ参加の友塚さんを迎え総勢16名。今年の活動開始に当り、先ずは全員祠山に集まり恒例の安全祈願の後、グループに分かれてスハマソウの株探しと落葉掻き、野鳥調査、シイタケホダ場整備(シカ食害対策ネット掛けと補修)、竹林整備-竹材加工、危険木処理などに精を出しました。森は寒々とした冬景色でしたが、昼食に差し入れ頂いた熱々のもつ鍋や甘酒、おせち等で心身共に暖まりました。(真鍋)



年始恒例の安全祈願



豊英島も湖も冬景色



千年の森看板を背に

○スハマソウ探しと落葉掻き

午前中に、スハマソウ探しとスハマソウの上に積もっている落葉を取る作業を行いました。吊り橋から北岸沿いに回ると湖面ギリギリのところと全部で約10株が見つかりました。こちらは落葉に埋もれているものではありませんでした。



湖岸のスハマソウ探し



湖岸で春を待つスハマソウ



祠山北斜面スハマソウの落葉掻き

次に祠山の北斜面に回ってみると、こちらはほとんどの株が落葉に埋まっていた。希少種であるスハマソウの管理については、どのような管理が適当か結論は出ていませんが、今回は現状を把握するために積もって

る落葉を取り除き、こちらも約 10 株が残っていることを確認しました。今年はどのくらい開花するか楽しみです。みなさん、急斜面での作業お疲れ様でした。(福島)

○野鳥記録

カワウ1 オオバン1 トビ2+声 コゲラ声 ハシボソガラス声 ハシブトガラス声 ヤマガラ声
シジュウカラ声 ヒヨドリ2+声 エナガ声 メジロ声 ツグミ声 以上 12 種

トビの古巣には落葉が溜まったままで、新しい巣材の運び込みは確認できませんでした。今シーズンの繁殖に使用されるか否かまだ分かりません。島内でツグミの声を何度も聞いたのは珍しい記録でした。鎌田屋旅館の近くに柿の大木があって、1 月も半ばを過ぎたのにまだ熟柿が鈴なりでした。これを啄みにきたと思われるツグミが 100 羽ほど、周辺に待機していましたので、この群れの声が島内で聞こえたものと思います。同じく柿を狙ってムクドリも群れているのを帰りがけに目撃しましたが、範囲外の為、記録には残していません。ムクドリは都市近郊に多く、自然豊かな山中では見かけないので、環境俗化の指標鳥と言う人もいます。(坂本)

○センサーカメラの画像から

12月の活動日から1月の活動日の間にニホンジカとホンドタヌキが4回写っていました。

その他にはノウサギとテンが各1回でした。千年広場に近いカメラは活動日の最中でも電源を入れっぱなしだったので、竹材運びに精を出す皆さんが写っていました。(坂本)



ニホンジカ 12月25日20時54分

○冬の植物いろいろ



ヤブツバキ 今年暖冬のため咲き進むのが早いようです。



ナガバノコウヤボウキ 冠毛が輝いて花のようにきれいでした。



カンアオイ 年々林床から消えてゆきます。撮影に適した株を探すのに苦労しました。



ミヤマシキミ 冬の林床にミヤマシキミが赤く輝いていました。



シュンラン 植生保護柵内にはシュンランが多数株あり、蕾を付けた株もありました。



祠山北斜面に、ミヤマウスラやアキノギンリョウソウ(朔果)が見つかりました。

(以上 坂本・真鍋・福島)

○ホダ場の整備作業

午後から、2組に分かれて、ホダ場の保護柵の設置や保護ネットの補修を行いました。1組は、広場近くの鑑伏せのホダ木に、保護ネットを設置しました。ベテランメンバー7~8人で、取付け方法について多くの意見があり、頂部に長い竹を取り付けて、合掌型でネットを張りました。立派な出来で鹿や猿も入ることは出来ないでしょう。

他のホダ場は、ネットに穴が開いているので補修をしました。ホコラ山近くのホダ木は、7~8年経過しているもので、この春の発芽状況を見て廃棄処分にする予定です。(久我哲也)



シカにもサルにも負けない保護ネット

○マダケ林整備など

マダケ林を整備し、除伐したマダケを広場に運び、半割り加工等行いました。また架かり木になったり、植生保護柵に倒れかかった倒木の処理なども行いました。



竹林を整備しマダケを広場に運び(センサーカメラ自動撮影)



竹材を加工しました



倒木の処理も行いました

ちば里山カレッジ次世代リーダー養成コース インターンシップに参加して 友塚 新樹

1/17は、ちば千年の森をつくる会にお邪魔しました。豊英島に来るのは2度め。今回は6ヘクタールの島全体をゆっくり見て回ることができて、島の自然を堪能しました。また、ダム建設で今の島ができる前、水田開発のために蛇行する小糸川を川廻し(ショートカット)したことや、過剰な手入れを避けながら、島の自然をどう見守ってきたかなど、それぞれの現場を前にして貴重なお話をいろいろ伺うことができました。午後はしいたけホダ場の整備を手伝いましたが、あまりお役に立てなかったと反省。こういうときに竹の切断でも、柵の組み立てでもさっと手ができるようになりたいです。



禁断の岬から昔はつながっていた対岸を望む



ホテイ岬からの湖面



ヤマユガ(左)とウスタビガのきれいな繭

(ご了解をいただき、友塚さんの1月18日Face Bookから転載しました)

「ちば千年の森をつくる会」に入会して

秋元 良夫会員

12月に入会しました秋元でございます。ちば里山カレッジのフィールド研修とインターンシップにより2度豊英島に入りました。自然の楽しみ方としてリクリエーションであったり、研究活動であったり、保護活動であったりと様々な動機で参加している方がいることを知りました。知的好奇心を満足させ、自然保護もできる奥の深い活動ができる会だと思えます。楽しみながらゆったりとしたペースで、自然との関わりが持てる会の仲間に入れて頂けて、大変うれしく思っています。

1月17日に3度目の島入りをしました。年の初めの大切な行事であるほこら山の祠の神に、一年間の安全を先輩の方々と一緒に真摯な気持ちで祈願しました。私の自然保護活動の第一歩として記念すべきことです。その後、何班かに分かれての活動がありました。私は福島さんと真鍋さん、岩崎さんについて、スハマソウの落ち葉払いに行きました。目的は落ち葉に隠れたスハマソウの葉に多くの光をあて、最近咲かなくなっている白い花を復活させるための作業だということです。ただ、欠点として鹿に見つけられ易くなり、食害にあう危険があるということです。作業の終了する12時ころには、ミヤマウズラ、エンコウカエデ、リュウキュウマメガキ等の今まで知らなかった植物に出会い、収穫の多い作業でした。

今後の活動をよりわくわく期待させるような日となりました。とても充実した日を過ごさせて頂きました。先輩諸氏にお礼申し上げます。

お知らせ

○新入会員紹介

君津市中野の秋元良夫さんは今年度ちば里山カレッジ次世代リーダー養成コース受講中、12月6日インターンシップで千年の森活動に参加され、活動に共感して12月11日入会されました。ご活躍を期待します。

○森林研究センター成果発表会

2月3日(水)午後1時半から、さんぶの森文化ホールで森林研究所の試験研究成果発表会が開催されます。参加は無料で、事前申し込みも不要です。お気軽にご参加ください。プログラムは以下の通りです。

発表1 放射性セシウム濃度を低減させる原木シイタケの栽培方法 森林研究所 岩澤 勝巳

発表2 伐竹等による除染試験結果とタケノコの放射性セシウム濃度の経年変化 森林研究所 小林 真生子

発表3 間伐の際はスギカミキリ被害木を除去しよう！森林研究所 福島 成樹

発表4 (情報提供) 追肥をしないクロマツ1年生コンテナ苗の生産方法 森林研究所 荒木 功介

≪総合討議(質疑)≫【15:30～15:55】

○2-3月の定例活動日

2月13日(日) 光環境調査(冬)、植物調査、野鳥調査など

3月13日(土) シカ個体数調査、ヒメコマツ樹高・径計測、植物調査、野鳥調査など

いずれも9時30分県民の森駐車場集合です。